

教職員自己紹介

廣田 豊彦(ひろた とよひこ)

社会情報システム学科・教授

出身は山口県ですが、大学へ入学してから 17 年間は京都で過ごしました。学部的时候には電気系学科(3つの学科が事実上一体でした)に所属していました。卒業研究のときには、コンピュータ関係の研究をやっている研究室で CAI(計算機支援教育)システムの研究をやりました。大学院進学的时候には、少し悩んで、電気系ではなく情報工学専攻を選びました。大学院では主にソフトウェア工学の研究をやっていましたが、研究環境を整備するためのソフトウェア開発もいくつか経験しました。



大学院博士後期課程を修了し、学内の情報処理教育センターに助手として勤務するようになりました。おもな仕事は、広報の発行、学部講義の支援、システムの管理・更新などです。約 7 年間に在籍しましたが、特に印象に残っているのは、4 年目のときに、大規模なシステム更新を行ったことです。はじめて大量のパソコンを導入したのですが、当時はパソコンに ID とパスワードをチェックする機能がなく、メーカーに新たに開発してもらいました。プリンタの共有もいまではあたりまえですが、当時はそのような方式はありませんでしたので、ソフトウェアの改造などをしてもらいました。その結果、1 部屋 20 台のパソコンが 1 台のプリンタを共有できるようになりました。

昭和 63 年に京都を離れ、福岡にやってきました。飯塚市にある九州工業大学で、1 年間情報科学センターに所属した後、情報工学部知能情報工学科に昨年度まで助教授として勤務していました。その間もいろいろなことがありましたが、すぐに思い出すのは、オンライン試験の実施です。プログラミングの課題を提示し、各学生は時間中にその解答となるプログラムを作成して提出します。特別な試験環境を設定しているため、学生同士でのメール交換などはできません。提出されたプログラムは自動的にチェックされ、正解かどうかは直ちに学生の元へ返事が自動的に出されます。試験時間内であれば、何度も再挑戦できます。しかし、結果は惨憺たるもので、3 分の 1 の学生しか合格しませんでした。準備がたいへんなため、結局は 1 度しか実施できませんでしたが、条件さえ整えば、プログラミングの試験としてはかなり有効ではないかと考えています。

私の研究分野はソフトウェア工学で、ソフトウェア開発を支援するための手法やツールについて研究してきました。最近ソフトウェアそのものよりも、それを使う業務の分析やモデル化の研究に力を入れています。

安部 恵介(あべ けいすけ)

社会情報システム学科・教授

1982 年に東京大学大学院工学研究科計数工学専攻修士課程を修了し、同年三菱電機(株)に入社しました。中央研究所に配属され、情報科学序説でも紹介したように、列車の運転整理問題に取り組みました。大学院の輪講でたまたま整数計画法の勉強をしていたのが役に立ちました。会社に入ったら学生時代とは全然違う新しいことをやるものと思っていたのですが(実際多くの人はそうですが)、私の場合は意外とその延長線上にきたようです。



その後も列車運行管理システムの開発をしばらく続けましたが、丁度国鉄民営化の混乱した時期でもあり、やがて物流関係に移行し、物流合理化のための輸送計画システムの開発を行いました(列車がトラックに変わったわけです)。また産業分野の情報システム化を目的とした産業システム研究所に設立と同時に異動し、公共・工業等も含むいろいろな分野の設計・計画・運用システムの研究・開発を行ってきました。

また 1993 年 4 月より 2 年半、東北大学電気工学科に JR 東日本寄付講座の客員助教授として勤務しました。他企業や大学の方々との交流により、これまでの一企業内の枠を超えた自由な世界に魅力を感じるとともに、産業界の具体的なニーズや情報に疎遠な環境の中で実用的な研究を行うことの難しさも感じました。

なおこの間を振り返ってみると、結局本当に勉強したのは、会社に入ってからだという気がします。学生時代、無味乾燥に思えた理論や手法が、実際の問題に適用できると興味も湧いてきますし、また現実の問題を自分の力で解決するためには、真に理解する必要があります。またこれが可能となったのは、学生時代にその基盤を習得していたからであり(随分いい加減なところもあります)、少なくとも何を勉強すればよいか分かるという意味で) 理論と実践、そして両者が両輪となって発展していくことの重要性を感じました。

今後、理論と実用の両面から情報社会の発展に貢献できるよう、研究・教育に励んでいきたいと思えます。